サントリー
水の国くまもと
応援プロジェクト

豊かな熊本の地下水を未来へつなぐ
地下水みらいプロジェクト、始動

サントリーホールディングスは、公益財団法人くまもと地下水財団、熊本大学と手を組み、熊本の地下水を守る「サントリー熊本地下水みらいプロジェクト」を立ち上げました。プロジェクトの内容を4回に分けて紹介する「シリーズ・熊本の水を守る」第1回は、その目的や熊本の地下水保全のために上益城郡益城町で実施している「冬水田んぼ」の役割と併せ、活動の一環として行われた田植え体験の様子をリポートします。

産官学が連携し、地下水の将来にわたる持続可能性に貢献

〝水の国〟として知られる熊本ですが、昨年の熊本地震では、観光地である水前寺成趣園の湧水池が枯れるなど、被災地では何週間にも渡り断水が続き、生活用水の大切さ、重要性が浮き彫りになりました。

サントリーグループでは、嘉島町に九州熊本工場がある企業として、熊本の復興に貢献するための支援活動を実施。産業・観光振興の基盤であり、県民の生活を支える地下水の、将来にわたる持続可能性に貢献するため、2016年10月、公益財団法人くまもと地下水財団と熊本大学との連携で、「熊本地下水みらいプロジェクト」をスタートさせました。

プロジェクトでは、震災で被害を受けた水源涵養のための湛水農地「冬水田んぼ」(左の記事参照)の復旧に取り組むほか、熊本大学が実施する地下水流動メカニズムの調査、研究を支援。その結果を熊本地域の水源涵養対策に活用し、さらなる、涵養域の拡大につなげていく計画です。

熊本地震の被害を受けた「冬水田んぼ」を復旧

「冬水田んぼ」とは、肥えた土の生成や雑草の減少を目的とした、江戸時代にも行われていた日本の伝統農法です。

稲刈りが終わった11月から翌年3月の冬の期間に水田に水を張ることで、効率的な地下水涵養が期待できます。さらにアオサギやコガモの群れが飛来したり、水中に微生物やイトミミズなどの生物が増えるなど、水辺の生き物も豊かになります。また、害虫や病気の防除などにも役立ちます。

サントリーとくまもと地下水財団は2010年11月、益城町と協定を結び、行政や地域の協力の下、同町津森地区で「冬水田んぼ」の管理を始めました。現在、その面積は16㌶に拡大しています。

しかし、熊本地震により「冬水田んぼ」に地割れが発生。大きなところでは上下に約60㌢の地表のズレが生じるなど甚大な被害に見舞われました。

そこで同プロジェクトでは、今年1月から「冬水田んぼ」を実施している水田と、隣接する水田約6㌶を含む22㌶の復旧工事に着手。地割れによる漏水対策や水田傾斜の補正、畦の補修、用水路の補修などを行い、5月にようやく修復が完了しました。

熊本地震で地割れが生じた益城町の水田

プロジェクトによる早急な工事で復旧した益城町の水田

世界に誇る熊本地域の地下水を未来へ守り伝える活動を展開していきます。

(公財)くまもと地下水財団
理事長(熊本市長)
大西 一史氏

水道水源のほぼ100%を地下水でまかなう熊本地域※において、地下水は公共性の高い貴重な資源です。昨年の熊本地震では、改めて水のありがたさと大切さを認識したところです。

本プロジェクトは熊本地域にとってかけがえのない資源である地下水の保全に大きく寄与する重要な取組みになります。くまもと地下水財団としましても、世界に誇れる熊本の地下水を未来へ守り伝えるための活動を積極的に進めてまいります。

※熊本地域：熊本市、菊池市(旧泗水町・旧旭志村)、宇土市、合志市、大津町、菊陽町、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町

迅速な被災状況調査、復旧工事に感謝

西村 博則 益城町長

熊本地震により、町内の水田に地割れや地表のズレが起こり、主要産業である農業に大きなダメージを受けました。

今年1月から「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」の一環として、地割れの補修などに取り組んでいただきました。早急に水田の復旧ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後もプロジェクトの推進とともに、「冬水田んぼ」が環境保全、地下水の涵養に効果があることを知ってもらう広報活動を進め、広く伝えていくことが私たちの役割です。

「冬水田んぼ」の意義 次の世代に伝えたい

「冬水田んぼ」を実施している
農業・**松本 智治**さん(72)

昨年は熊本地震の影響で、作付面積の約半分は田植えができませんでした。今年は復旧工事が終わり、近隣の農家一同、田植えができることに感謝し、意欲的に米作りに取り組んでいます。

豊かな地下水を育み自然環境にも優しい「冬水田んぼ」の意義を、子どもたちに伝えていきたいですね。

復旧した田んぼで田植えスタート

益城町の上陳、下陳両地区の修復工事が完了した水田に6月17日、親子連れなど約40人が集まり、田植えを体験しました。初めての経験に歓声が上がった田植えの様子をお伝えします。

泥んこが気持ちいい！水の恵みを親子で体感

県内有数の米の産地である益城町。中でも、木山川と金山川に面した上陳、下陳両地区は、良質の米が採れる地域として知られています。

周りを山に囲まれ、川のせせらぎが聞こえる田んぼに着くと、子どもたちはいてもたってもいられない様子。田んぼに飛び込み、泥遊びを始める子どもたちの目はキラキラしています。

「じゃあ、苗を植えてみようか」。九州大学の学生らの指導で、一列に並びヒノヒカリの苗を丁寧に植えていく参加者。中には、全身泥だらけになりながら、苗を植えている子どもも見られました。

熊本市南区から参加していた西川純平くん(小3)は、田植えは初めての体験。「はだしで田んぼに入って気持ちよかった。今日植えた苗がどんなふうに成長するのか楽しみ」と、稲の成長を心待ちにしている様子でした。

初めてとは思えないほど手際よく苗を植える子どもたち

「あぜ道でバッタを見つけたよ～！」と大喜びする西川純平くん

企画：サントリー熊本地下水みらいプロジェクト SUNTORY 公益財団法人 くまもと地下水財団 熊本大学 Kumamoto University